

令和7年4月14日
北海道開発局

令和7年7月～10月催行予定の「地域共創インフラツアー」!

～地域と共に創り上げるストーリー性のあるツアーを企画・催行する旅行事業者を募集します～

北海道開発局では、公共施設(インフラ)を観光活用することにより地域活性化に貢献するとともに、インフラへの理解を深めていただくことを目的に、インフラツーリズムに取り組んでいます。

このうち、「インフラが支えた地域発展の歴史」を柱に、地域の「歴史、産業、文化、食」といった様々な要素を取り入れ、地域と調整しながらストーリー創りを行い、関係機関と連携してツアーを実施していくことで、インフラを観光資源とし、地域活性化のためのツールの一つとして幅広く活用されることを目指した「地域共創インフラツアー」を実施します。

7月～10月に予定している下記の企画について、ツアーの催行を希望する旅行事業者を募集します。

記

1 ツアーテーマ

(平取編)

平取ダム・二風谷ダム見学とアイヌ文化を感じる旅

(阿寒横断道路編)

道路による地域の発展と産業を知るツアー ～阿寒横断道路・永山在兼～

(新釧路川治水編)

北海道遺産と選奨土木遺産から釧路の発展を辿る ～簡易軌道と新釧路川の治水～

(根釧編)

日本の酪農を支える根釧地域を学ぶ

(阿寒編)

阿寒発展の基礎を築いた輸送路の発達

2 募集期間 令和7年4月14日(月)～令和7年4月24日(木)

3 申込方法等 応募要領、申込様式、申込先等については、北海道開発局HPをご参照ください。

URL: <https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ki/renkei/splaat000001lr55.html>

4 企画内容等 詳細は別紙をご参照ください。

※ 次回の募集については、準備が出来次第、改めてお知らせします。

【問合せ先】国土交通省 北海道開発局 電話(代表) 011-709-2311

開発監理部 開発連携推進課 開発企画官 五百木 英明 (内線 5433)

開発監理部 開発連携推進課 上席専門官 坂田 誠一 (内線 5441)

開発監理部 開発連携推進課 松下 明日香 (内線 5442)

北海道開発局ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/>



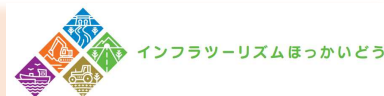
令和7年度 地域共創インフラツアー 対象テーマと予約枠

ツアーテーマ		時期	予約枠数
平取編	平取ダム・二風谷ダム見学とアイヌ文化を感じる旅	7月～9月	全1回
阿寒横断道路編	道路による地域の発展と産業を知るツアー ～阿寒横断道路・永山在兼～	9月～10月	全1回
新釧路川治水編	北海道遺産と選奨土木遺産から釧路の発展を辿る ～簡易軌道と新釧路川の治水～	8月	全1回
根釧編	日本の酪農を支える根釧地域を学ぶ	8月	全1回
阿寒編	阿寒発展の基礎を築いた輸送路の発達	10月以降	全1回

各テーマの詳細、メニューリストは次ページ以降をご覧ください。

地域共創インフラツアー（平取編）

平取ダム・二風谷ダム見学とアイヌ文化を感じる旅



- 平取町は古くからアイヌ民族が生活の拠点にしており、現在も二風谷コタンや二風谷アイヌ文化博物館、平取町アイヌ文化情報センターなど、アイヌ民族の暮らしと文化を学び体感することができる施設が数多く存在するアイヌ文化発信の拠点のひとつです。
- また、日高地域の沙流川流域には「洪水調節」「流水の正常な機能の保持」「利水」「発電」の役割を果たす二つの多目的ダム「二風谷ダム」「平取ダム」があり、流域の自然環境の保全や調和を図りつつ、まちづくりと連携した地域経済の活性化やにぎわいの創出等、人々の生活や産業を守る役割も担っています。
- 当ツアーでは、古来より続く「アイヌの伝統文化」と現代の社会インフラである「ダム」が共生・共存する日高地域の各施設を巡り、地域の歴史・文化についてより深く学ぶことができます。

予約枠 7月～9月の間で1回（日程は調整の上決定）

ツアー定員 10～20名 程度

※その他応募の諸条件は、催行応募要領をご覧ください。

📌 ここがポイント！

- ① 平取ダムと二風谷ダムの普段は立ち入れない場所に、職員解説付きで見学することができます。
- ② アイヌ文化について学べる施設を、平取町職員の解説つきで回ることができます。

メニューリスト

ツアーを企画する際は、以下の「メニューリスト」のうち（☆）印は必須の見学スポットですが、その他グルメ、観光スポットなどを任意で行程に組み入れていただけます。【 】は所要時間の目安です。

① 平取ダム（☆）【50分】

ダムの堤体内部等を開発局職員による案内付きで見学します。

② ノカピライウォロ・ビジターセンター（☆）【40分】

平取町職員による案内付きで見学します。

③ 二風谷アイヌ文化博物館（☆）【40分】

平取町職員による案内付きで見学します。

④ 二風谷コタン（☆）【20分】

自由行動で二風谷コタン周辺を散策します。

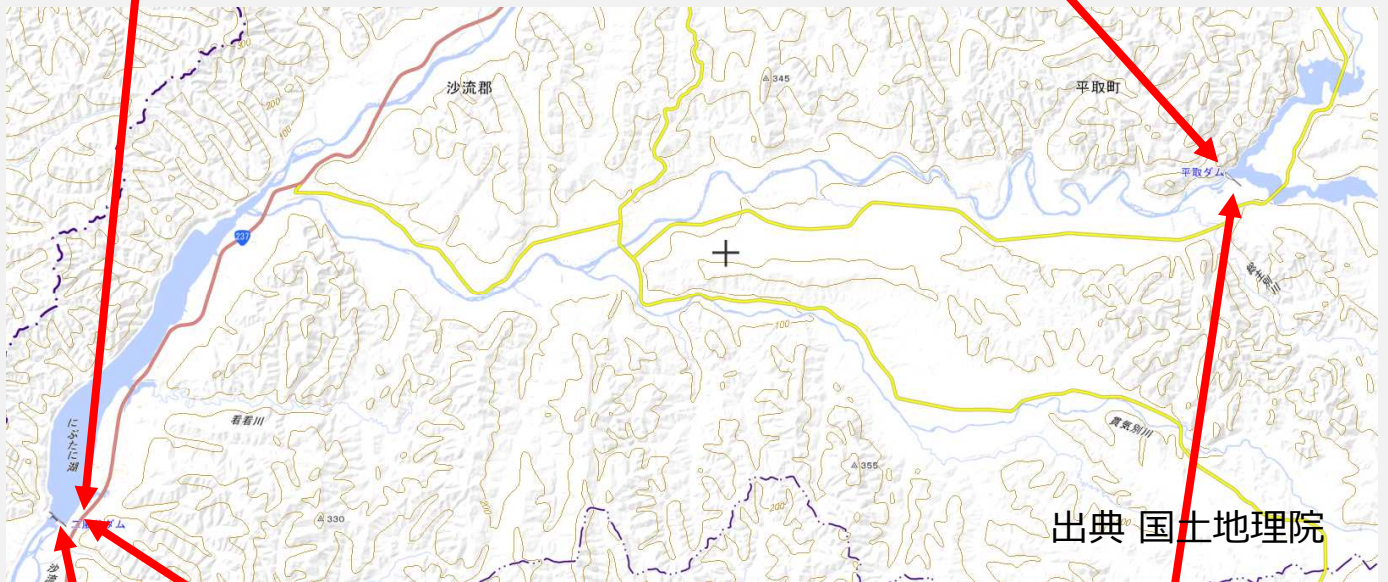
⑤ 二風谷ダム（☆）【50分】

ダムの堤体内部や魚道等を開発局職員による案内付きで見学します。

※開始時間と集合場所につきましては未定です。

※出発地、行程により、どちらか一つのダムの見学とすることも可能です。

○見学可能な施設



地域共創インフラツアー（阿寒横断道路編）

道路による地域の発展と産業を知るツアー～阿寒横断道路・永山在兼～

- ◆釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイのルート上にある「永山標柱」に焦点を当て、阿寒横断道路の開通により、「阿寒国立公園」（当時）の指定に繋がったことから、シーニックバイウエイの起源を辿っていきます。
- ◆阿寒摩周国立公園について、国立公園の保護と利用の両方の視点から国立公園の姿について学びます。
- ◆道路は建設するだけでなく、日常の維持管理があるからこそ機能を維持しているものであり、道路の維持管理の実態を学びます。

予約枠 9月～10月の平日に1回を想定（日程は調整の上で決定）

ツアー定員 15名程度

※その他応募の諸条件は、催行応募要領をご覧ください。

📌 ここがポイント！

☆釧路開発建設部と弟子屈町教育委員会、環境事務所との連携により、開発建設部職員、学芸員、環境事務所職員による、ツアー参加者限定の解説により各施設を見学できます。

☆通常は入ることができない融雪剤を製造する工場の中に入り、少人数でじっくり見学することができます。

メニューリスト

ツアーを企画する際は、以下の「メニューリスト」のうち☆印は必須の見学スポットですが、その他グルメ、観光スポットなどを任意で行程に組み入れていただけます。【 】は所要時間の目安です。

① 永山峠標柱・双岳台（☆）【20分】

永山峠標柱・双岳台を弟子屈町教育委員会学芸員の解説により見学。

② 阿寒湖畔ビジターセンター（☆）【30分】

ビジターセンター内を環境省職員の解説により見学。

③ 阿寒湖温泉除雪ステーション（☆）【30分】

除雪ステーション内を弟子屈道路事務所職員の解説により見学。

④ 道東塩業工場（☆）【30分】

融雪剤を製造する工場内部を見学。

※見学施設は全て解説付きです。 ※釧路市発着の日帰りツアーとしての催行を推奨します。

○見学可能な施設

阿寒湖除雪ステーション

阿寒湖畔ビジターセンター



永山峠標柱
双岳台

道東塩業工場

地域共創インフラツアー（新釧路川治水編）

北海道遺産と選奨土木遺産から釧路の発展を辿る～簡易軌道と新釧路川の治水～

- ◆釧路の産業発展に寄与した簡易軌道と釧路川を上流から下流へたどり、学芸員と開発建設部職員の解説によりその歴史を学びます。
- ◆北海道遺産である簡易軌道跡について、標茶町と鶴居村の2つの軌道跡を巡り、陸上輸送の歴史を学びます。
- ◆令和6年度に公益社団法人土木学会の選奨土木遺産に認定された旧岩保木水門の中に入り、釧路川の流域治水と河川舟運の歴史を学びます。

予約枠 8月の平日に1回を想定（日程は調整の上で決定）

ツアー定員 15名程度

※その他応募の諸条件は、催行応募要領をご覧ください。

📌 ここがポイント！

☆釧路開発建設部と釧路市立博物館の連携により、開発建設部職員又は学芸員による、ツアー参加者限定の解説により各施設を見学できます。

☆通常は内部公開していない「旧岩保木水門」の中に入り、少人数でじっくり見学することができます。

メニューリスト

ツアーを企画する際は、以下の「メニューリスト」のうち☆印は必須の見学スポットですが、その他グルメ、観光スポットなどを任意で行程に組み入れていただけます。【 】は所要時間の目安です。

① 新釧路川右岸堤防道路（☆）【40分】

新釧路川の右岸側から釧路湿原を見学。

② 旧岩保木水門（☆）【40分】

旧岩保木水門を開発建設部職員の解説により見学。

③ 標茶町営軌道跡（☆）【40分】

簡易軌道線路跡を見学。

④ 鶴居村ふるさと情報館みなくる（☆）【40分】

鶴居村簡易軌道の歴史をおさめた資料館を見学。

⑤ 鶴居村営軌道跡（☆）【30分】

簡易軌道線路跡を見学。

※見学施設は全て解説付きです。 ※釧路市発着の日帰りツアーとしての催行を推奨します。

○見学可能な施設

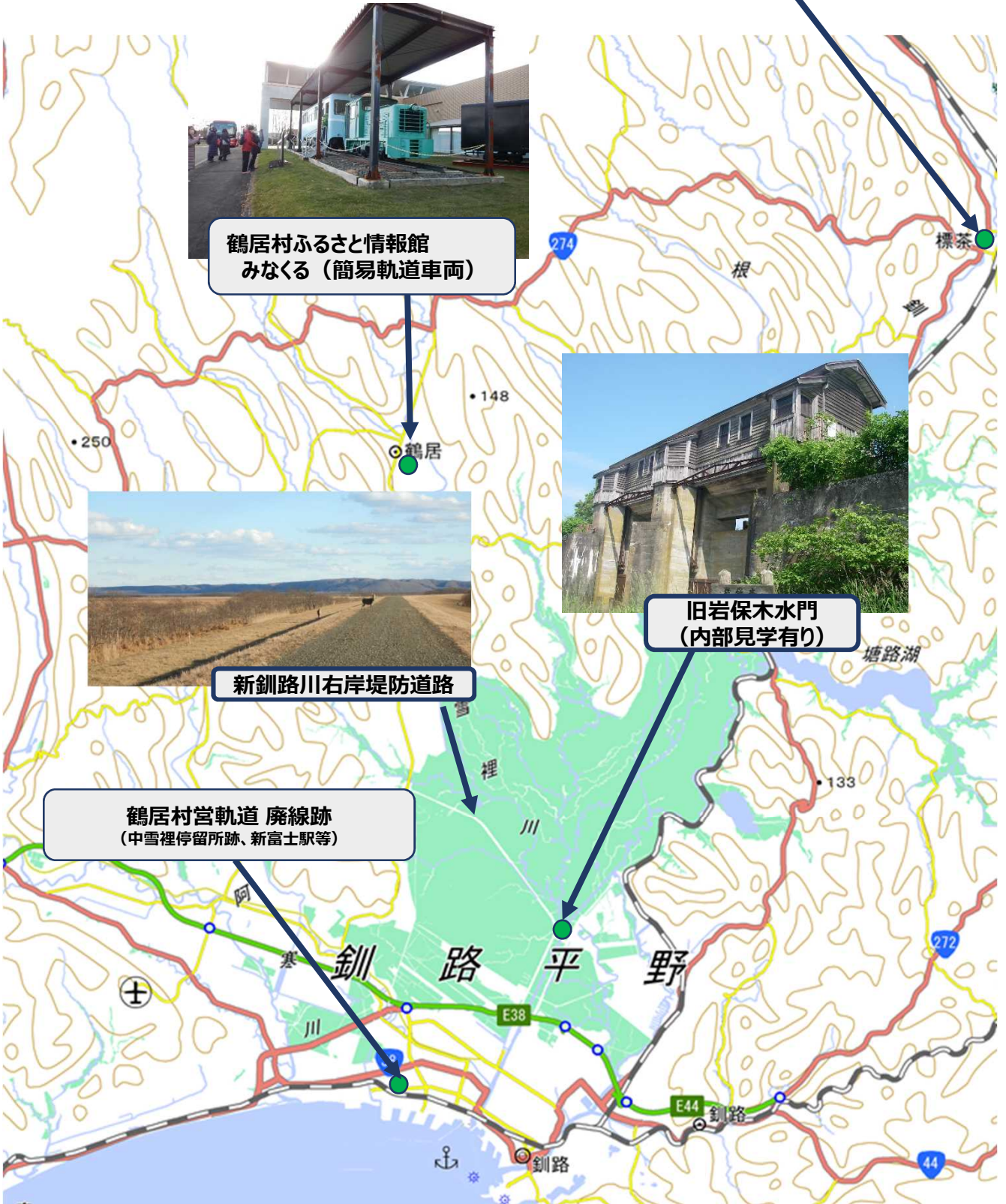
標茶町営軌道 廃線跡
(開運町停留所、沼幌停留所跡等)

鶴居村ふるさと情報館
みなくる (簡易軌道車両)

旧岩保木水門
(内部見学有り)

新釧路川右岸堤防道路

鶴居村営軌道 廃線跡
(中雪裡停留所跡、新富士駅等)



地域共創インフラツアー（根釧編） 日本の酪農を支える根釧地域を学ぶ



◆本ツアーでは、日本の酪農を支える根釧地域における、家畜飼料原料の輸入拠点である釧路港、飼料原料の貯蔵施設－生乳生産・加工－道外へ生乳輸送までの道のりをたどりつつ、物流基盤である道路、港湾のインフラ整備状況・効果なども併せて体験していただけます。

予約枠 8月の平日に1回（日程は調整の上決定）

ツアー定員 15名

※その他応募の諸条件は、催行応募要領をご覧ください。

📍 ここがポイント！

- ☆明治以来、根釧地域の産業とともに発展を遂げてきた釧路港をスタート地点として、牛乳ができるまでの流れを順にたどりつつ、生産過程と物流の流れを一体的にツアーで体験していただけます。
- ☆RORO船「ほくれん丸」を間近で見学できるのは道内では釧路港だけ！

メニューリスト

ツアーを企画する際は、以下の「メニューリスト」のうち☆印は必須の見学スポットですが、その他グルメ、観光スポットなどを任意で行程に組み入れていただけます。【 】は所要時間の目安です。

① 西港区第2埠頭地区国際物流ターミナル（☆）【30分】

釧路港の役割・利用状況を解説を聞きながら見学。

② 三ツ輪運輸飼料原料貯蔵施設（☆）【50分】

家畜飼料原料の巨大な貯蔵施設を見学。

③ 仁成ファーム（☆）【45分】

大規模農場の先端施設を見学。

④ よつ葉乳業（株）根釧工場（☆）【40分】

会議室にて工場概要を説明、動画による製造工程視聴。

⑤ ほくれん丸（☆）【60分】

トラックでの荷物積み込み作業を船内で見学。

※見学施設は全て解説付きです。 ※釧路市発着の日帰りツアーとしての催行を推奨します。

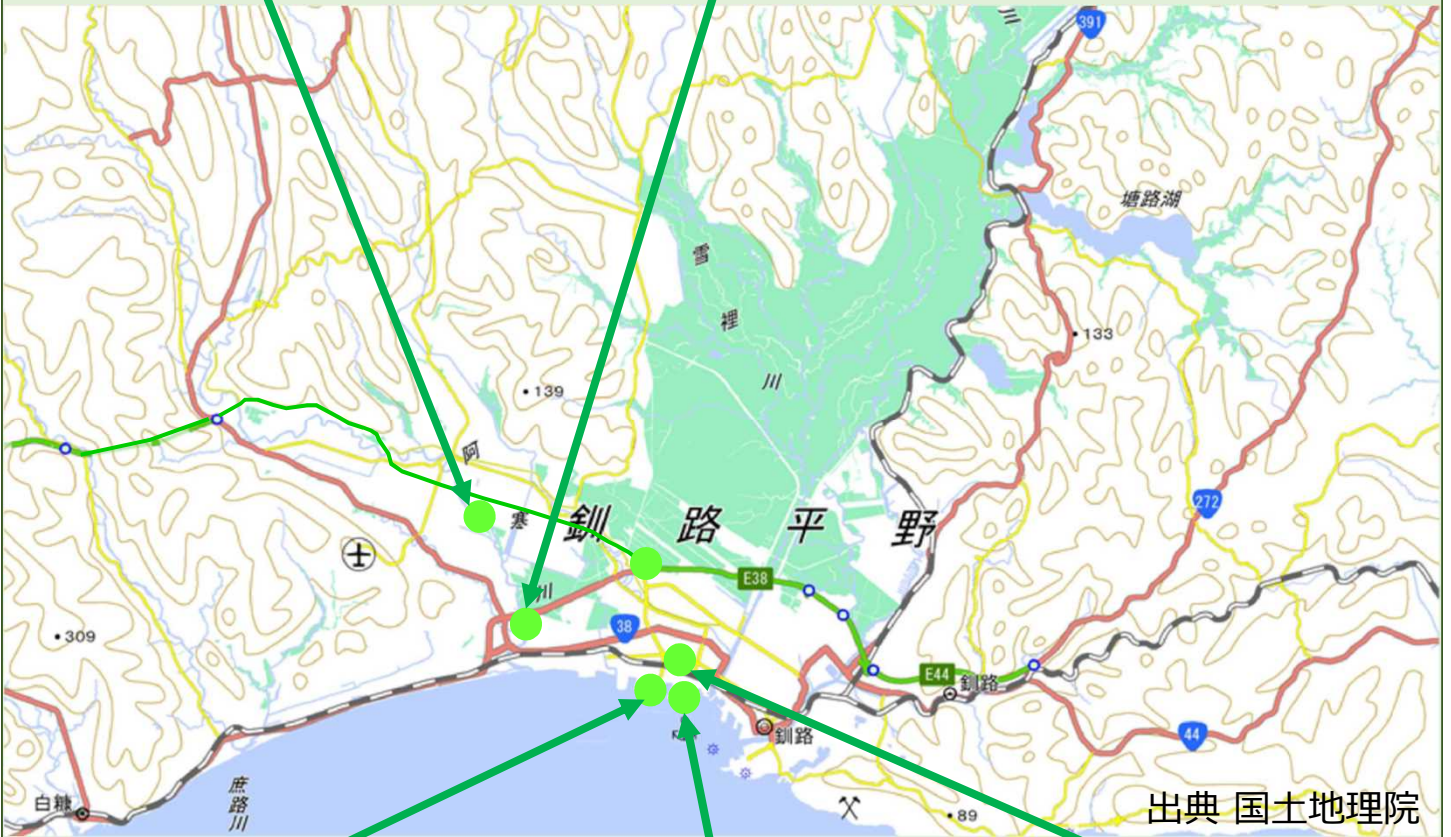
○見学可能な施設



仁成ファーム



よつ葉乳業(株)根釧工場



ほくれん丸



西港区第2埠頭地区
国際物流ターミナル



三ツ輪運輸飼料原料貯蔵施設



地域共創インフラツアー（阿寒編） 阿寒発展の基礎を築いた輸送路の発達



- ◆今は無人となっている釧路市阿寒町雄別は、かつては雄別炭鉱で栄え、雄別鉄道が雄別と釧路を結んでいました。しかし、高度経済成長のなかで石炭産業は斜陽化し、1970年に閉山。わずか数ヶ月の間に人々は新しい暮らしを求め、山を離れていきました。
- ◆雄別鉄道の廃線後、新たな輸送手段としての道路が発達し、昨年度、道東自動車道阿寒IC－釧路西IC間が新たに開通となりました。
- ◆阿寒発展の基礎を築いた炭鉱と輸送の歴史の変遷を学芸員の解説により学びます。

予約枠 10月以降の平日に1回（日程は調整の上決定）

ツアー定員 15名程度

※その他応募の諸条件は、催行応募要領をご覧ください。

📌 ここがポイント！

☆釧路開発建設部と釧路市立博物館の連携により、開発建設部職員又は学芸員によるツアー参加者限定の解説を聞きながら各施設を見学できます。

メニューリスト

ツアーを企画する際は、以下「メニューリスト」のうち☆印は必須の見学スポットですが、その他グルメ、観光スポットなどを任意で行程に組み入れていただけます。【 】は所要時間の目安です。

- ① **古潭・雄別歴史資料室（☆）【40分】**
雄別炭鉱に関する歴史資料を見学
- ② **雄別炭鉱跡（☆）【40分】**
学芸員の解説により実際の雄別炭鉱の街並み跡を見学
- ③ **布伏内郵便局（☆）【15分】**
郵便局内の雄別炭鉱パネル展を見学
- ④ **セイコーフレッシュフーズ釧路配送センター（☆）【50分】**
配送センターの内部を見学
- ⑤ **道東自動車道阿寒IC～釧路西IC（☆）【20分】**
バス車内で開建職員による開通効果などの解説
- ⑥ **釧路製作所（☆）【50分】**
橋梁等を製作する工場を見学
- ⑦ **雄別鉄道地下通路出入口跡（☆）【30分】**
現存する雄別鉄道関連施設跡を見学

※見学施設は全て解説付きです。 ※釧路市発着の日帰りツアーとしての催行を推奨します。

○見学可能な施設

雄別炭鉱跡

布伏内郵便局

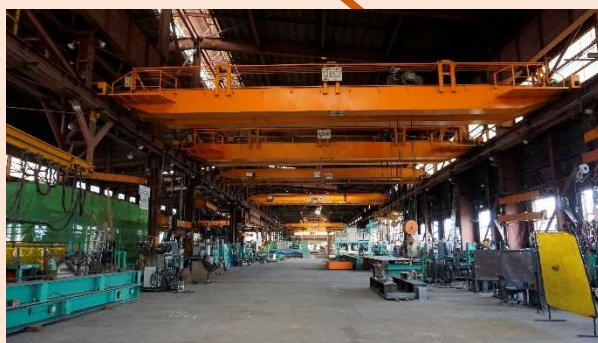


古潭・雄別歴史資料室

セイコーフレッシュ
釧路配送センター



雄別鉄道地下通路出入口跡



釧路製作所